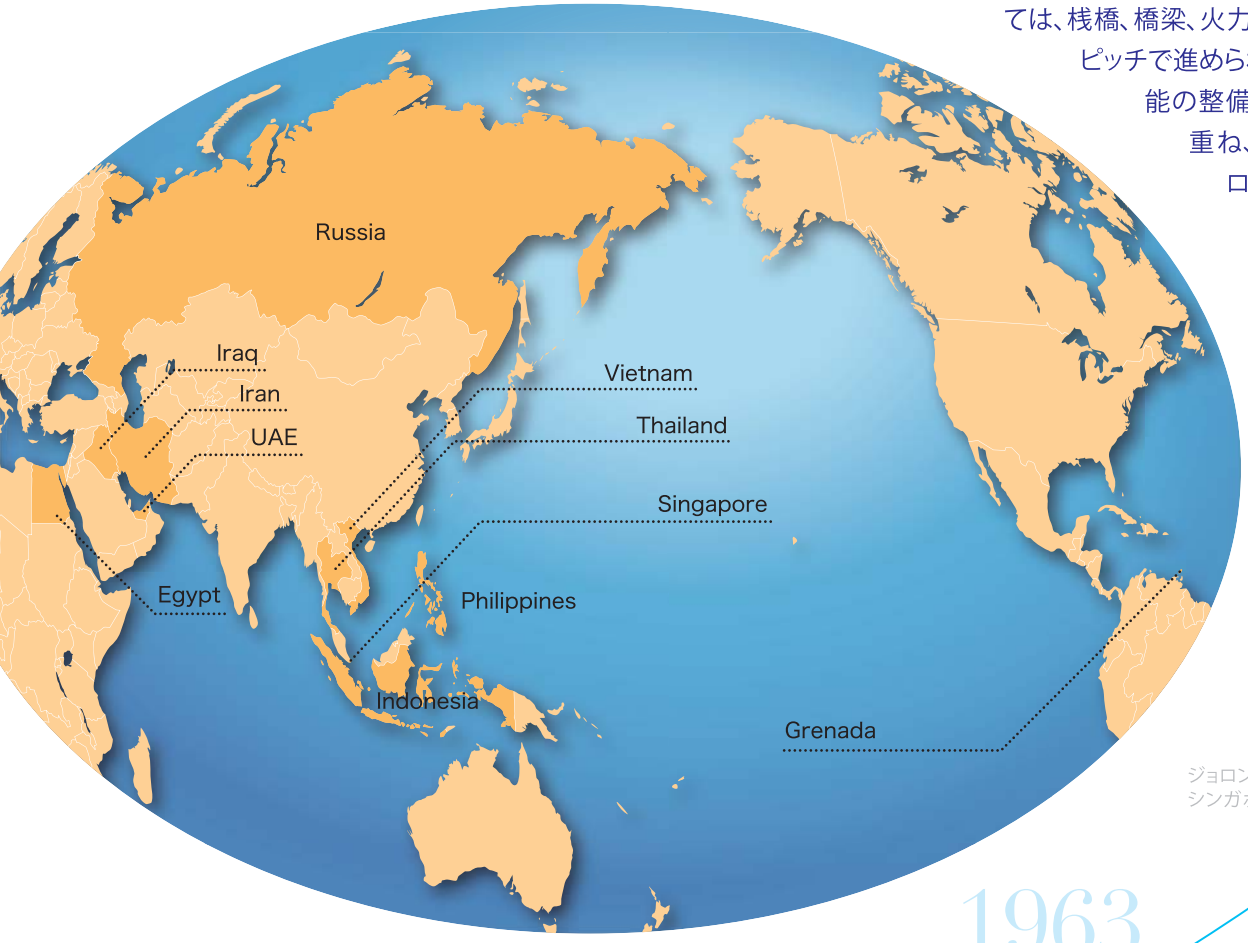
特集

50th Anniversary

海外進出50周年

世界の国々で国の礎を築き未来を創る

1963年に海外事業部（現国際事業部）を設置してから今年で50年。その間、東南アジア、中東を中心として世界各地で建設工事に携わり、イラン革命、イラン・イラク戦争をはじめ、さまざまなカントリーリスクに遭遇することもありましたが、幾多の困難を克服して、海外における豊富な実績と信頼を積み上げてきました。1970年代、シンガポール独立まもない頃に手がけたチャンギ国際空港は、今では東南アジア地域における有数のハブ空港となり、世界で最も評価の高い空港として知られるまでに発展を遂げています。また、近年、巨大な経済圏としてASEAN（東南アジア諸国連合）地域が世界の注目を集めていますが、当社では東南アジアの発展の基礎を半世紀にわたって築いてきました。21世紀に入っても、シンガポール、フィリピン、インドネシア、タイ、そしてベトナムにおいては、桟橋、橋梁、火力発電所、港湾など、急ピッチで進められるインフラや物流機能の整備のために日夜努力を重ね、特に、世界経済のグローバル化にともない、今日では海と陸をつなぐ物流地点の最重要施設となっている国際コンテナターミナルの建設では、多くの実績を重ねています。



1968
スマトラ桟橋工事／インドネシア

ジョロン航路浚渫工事／シンガポール

1967

1963
シンガポール事務所開設

1980
スエズ運河改修工事／エジプト
イラン・イラク戦争勃発

1979
バンダル・アバス桟橋工事／イラン
イラン革命

1978
チャンギ空港埋立工事／シンガポール

1976
アブ・フルス桟橋建設工事／イラク

1975
ボンタン肥料基地／インドネシア
西海岸埋立造成工事／シンガポール
東南アジア支店開設
テヘラン出張所開設
イラン・イラク事務所設置

1973
コンテナバース工事／香港

1972
ベイルート駐在員事務所開設
マレーシア駐在員事務所開設

チャンギ国際空港

シンガポールは東南アジアにおける知識集約センター的役割をめざし、社会資本整備の一環として、チャンギ国際空港の建設を計画。当時、日本の建設業者が受注した海外工事では東南アジア地域で最大規模でした。

チャンギ空港工事 調印式

1976年3月に行われた調印式は、テレビ中継を通じてシンガポール国民に放映され、翌日の新聞にも大きく報道され、同国民の関心、期待の大きさを示していました。

Singapore

コール・アル・ズベール工事 調印式

1970年代、中東諸国では豊富なオイルマネーを背景に大型プロジェクトが続きました。1976年2月にはイラクで当社創立以来最大の工事契約を正式調印しました。

Iraq

ボンタン肥料基地

当社の海外との関わりは東南アジアから始まりました。香港、シンガポールに続き、インドネシアではスマトラで桟橋工事、河川浚渫工事、ボルネオ島ボンタンで肥料基地建設工事を受注。

Indonesia

海外進出50周年に寄せて

海外事業の展望

代表取締役兼執行役員副社長
中込 修

当社の海外事業も半世紀にわたる歴史の中で、時代の推移と共に大きく変化してきました。

当社が海外進出を決断した時期は昭和30年代後半で、その時代は、戦後植民地からの独立を果たしたアジアの国々が、自国の近代化と発展をめざし第1次産業主体の経済から工業化へと舵を切り、先進国から最新技術を持った企業を誘致すべく社会基盤整備に着手し始めた時です。

当時、多くのアジアの国々における建設技術や契約の準拠する法制度は、旧宗主国（イギリス・オランダ・フランス等）から伝来したものがそのまま使用されており、競争相手もほとんどが旧宗主国系の企業でした。そのような競争相手国の制度下での競争では、まだ日本の技術を売る余地は無く、低価格・高品質そして正確な工程管理が日本企業の武器でした。

この時期日本は高度成長期に入り日本全体が建設ブームに沸き、建設会社の目は国内の新たな需要に対処する技術開発・設備投資に向き、海外事業はごく一部の限られた人達が細々と行っていた業務でした。

翻って、国内建設市場は1992年度をピーク（建設総投資額84兆円）に年々縮小し、また2005年から始まった日本の人口減少と相俟って、建設産業は国内市場だけでは需給バランスが崩れ、供給過多に直面する時代となってきています。

一方、世界はグローバル経済の時代へ突入し、資源や安価な労働力に恵まれた新興国が経済力を飛躍的に伸ばしインフラ需要を生み、一昔前の援助国・被援助国の関係から純粋なビジネス市場へと変貌してきています。安定した経営を続けるためには、安定した市場が必要です。商習慣は違いますが、目を国外に向けた時、世界の建設市場は無限の広がりを見せています。

当社はこの10数年間、環境を重視する循環型社会の流れに応える先駆的技術を開発し、建設工事に資源保護・省エネの視点を持って取り組んで来ました。今日の世界のインフラビジネスのキーワードは「高品質」「適正価格」「環境」そして「スピード」です。当社の技術の引き出しにはこの4つのキーワードを満足させる多岐にわたるソリューションがあります。

一例を挙げれば、通常土木工事では大量の土砂や石材が必要ですが、昨今は環境保護の観点から十分な天然材を確保する事が困難な国が多くなってきています。このような国で土木工事を行うためには、代替材を適正価格で大量に安定供給できる技術提案が求められます。空港・港湾建設等大型土木工事で培ってきた多種類の地盤改良技術と大型作業船等による大量施工手段を有する当社は、新時代の環境下で新興国の国土発展と生活の向上に寄与できる大きな可能性を持っています。

当社の海外事業の方針は「緩やかな拡大」です。

一般的に日本の建設業の海外進出は多くのリスクを伴うと言われていますが、謙虚に過去の経験に学び、社内外の研修・海外留学・トレーニー制度（半年間の現地での海外実務研修）・OJT等々、あらゆる機会を通じて社員の潜在的な可能性を引き出してゆく事で、当社の海外事業を緩やかに拡大してゆきます。

2001
ポンゴール埋立事業／シンガポール

1998
セマカウ島ゴミ処理場／シンガポール

イラン工事再開
1982

イラク工事再開
1981

セマカウ島ゴミ処理場
シンガポール内陸部の廃棄物処分場に替わる洋上最終処分場の建設工事を受注しました。現在に繋がる海外事業の飛躍のきっかけとなった大型工事です。

Singapore

海外進出 50 周年

50th Anniversary

2002
フーミー火力発電所／ベトナム
セブ湾岸道路／フィリピン

2003
カオラック中央魚市場／セネガル

2005
マブタプット
石炭火力発電所桟橋／タイ
ニュー・クリフォード・ピア
フェリーターミナル／
シンガポール

2007
マグサイサイ橋／フィリピン

2008
サハリン II LNG 施設／ロシア
ラ・ウニオン港／エルサルバドル

2009
サイゴンプレミアコンテナ
ターミナル／ベトナム
オモン火力発電所／ベトナム
パシルパンジャン・コンテナターミナル／
シンガポール

2011
ゴーブ伝統的漁業地域
基盤改善計画／グレナダ

Grenada

ゴーブ伝統的漁業地域基盤改善計画

中央アメリカのグレナダでは2010年、港湾と流通設備を整備し、地域漁民の収入向上と、グレナダの主要産業である水産業の発展に寄与しました。

Vietnam

サイゴン プレミア コンテナターミナル

メコンデルタ地域における長年にわたる工事による同地域の軟弱地盤に関するデータの蓄積と、地盤改良工法の提案が高く評価されました。

Philippines

セブ 湾岸道路

基礎地盤が軟弱粘土層の海上に盛砂築堤を行い、約4㎞の道路を建設しました。

Russia

サハリンII LNG施設

サハリン島の厳しい気象条件と、周辺の豊かな自然を保護するための厳密な環境規制の下での施工となりました。